

| | |
|-------|---|
| 会 議 名 | 第6回 まちづくりの勉強会 |
| 日 時 | 平成31年1月30日 午後7時30分～午後9時40分 |
| 内 容 | <p>[テーマ] 高山の未来のための都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市 民 21名 事務局 4名 計25名 (10代：0名 20代：1名 30代：5名 40代：9名 50代：5名 60代：4名 70代：1名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(20分) 進行：事務局 ② グループ討議(90分) 前回までに議論した4つのテーマを意識しつつ、本日配布した各種データなども参考にして、4つのテーマから各グループが大切にすべき視点や地域についての共通項などを見出すための討議 ③ グループ別発表(18分) ④ おわりに(2分)</p> <p>[グループ別発表] 【グループ1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高山の良さ「全てにモノゴトがゆっくりとすすんでいる」 ・A:継承する モノからコトへ(高い食文化、子どもたちへの文化伝承、自然の素晴らしさ) ・D:新たな 暮らしの質を高める ・C:なくなるかもしれない地域(土地)への ソフトランニングの方向で、広大な自然を生かす取り組みを ・B:情報化と 本物が注目を浴びる ・お金で買えない価値、ゆっくりとした質のいいものを追求していけば良い <p>【グループ2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿「若者が住みやすい高山」 ・D:新たな 起業チャンスを増やす、新しい産業を作る、公園で新しいコミュニティを作る 車の自動運転だけでなく小型飛行機も出てくるのでは ・A:継承する 高山に戻って来られる動機づけを整備する(県外に出る前に町の理解を深める) ・C:なくなるかもしれない地域(土地)への 小さい規模のマルチハビテーションとして周辺地域を活用する ・B:情報化と 皆で使えるインフラ作りが必要 情報を使う教育より、使えるツールの作り方など、ものづくりの教育を進める <p>【グループ3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図上にテーマA～Dをプロットした ・議論を深めるためには、情報をまとめて整理すること ・本当に求められているものかわからない ・町の情報化、データベース化を進め、要望をまとめ、いろいろな提案ができるようにする (共同生活を推進、トマトに特化した飛驒のエリア案内をする、歴史観光コースを提案するなど) <p>【グループ4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口分布図のグレー(無、10人以下)の地域が多いことにショックを受けた ・清見地区に赤色(201人以上)1箇所あり ← 木工関係の移住者が多い ・移住モデル地区を作ってみたらどうか(新潟に事例あり) ・どんな集落かということを知ることが大事 → 集落ヒアリングまち歩きをやってみよう |

- ・伝統芸能をロボットに記憶化、記録化させ、なくなる地区の伝統を残していく

[アンケートより抜粋]

- ・外国の方、高山以外の方の意見は気づかされることが多いと思った。
- ・「地域密着型のデータベース作り」はとても良い結論だと思う。 等

[まとめ・次回について]

- ・第7回は、平成31年2月27日（水）19：30～21：30 市役所にて。